

# 私たちが知らない海洋問題

## —対馬での貴重な体験から学ぶ—



島原高校二年 中川創介

### 1. はじめに

私はこのプロジェクトに参加して、海洋ゴミについての知識が乏しいと気づかされた。日本国内でも最も多くの海洋ゴミが漂着しているといわれている対馬で学んだことの中で自分が知らなかったこと、貴重な経験になったと思うことを中心に述べたいと思う。



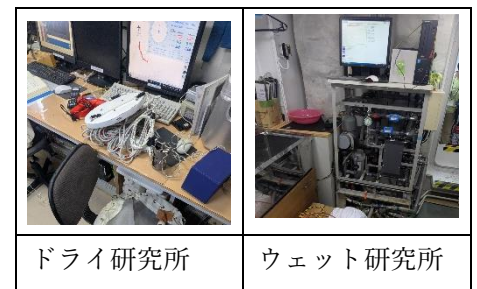
傾角度板



目視調査

### 2. 船内探索・海洋目視調査

私たちが乗船した、長崎大学水産学部の練習船鶴洋丸の研究室は2つに分かれていた。それぞれ別の役割を担っており、パソコンなどを扱うドライ研究室、水質の調査をするウェット研究室だった。航海中の緯度・経度をリアルタイムで見ることができたり、海水中の細かい成分なども確認できたりした。海図やコンパスを見たときは船に乗って航海をしているという実感がさらに湧いた。その後は船内での航海機器の説明を受けた。傾角度板、漂流物調査支援アプリを使って見つけた時間、場所(緯度・経度)、大きさ、色、種類などを記録した。普段は見ることのできない、大学の練習船の研究室を自分の肌で感じ、航海機器の使い方を学べる貴重な機会となった。



### 3. 椎根海岸での漂着ゴミ回収

特に多かったものは流木とプラスチック容器、魚具だ。とても多くの流木が流れ着いていたが、大きささまざまな流木や、人工的に加工された木材も多く見られた。流木は自然物だが、船に当たって船が損傷したり、景観を悪化させたりするなどの問題がある。プラスチック容器は日本のものも多かったが、椎根海岸に漂着していたプラスチック容器は韓国、中国から流れ着いたものも多かった。この点は他の海岸と比べ、特に異なっている点だと感じた。流れ着いた製品はラベルや商品コード、賞味期限などの情報からどこの国のどんな製品で、いつごろ流れてきたのかなどを知ることができた。私は化粧品に興味があり、漂着ゴミの中に化粧品がないか探してみた。すると中国と韓国の化粧品の容器をみつけた。中でもチューブタイプのゴミが多かった。フタが閉まっていた容器は中身も残っており、漂着後も使用できそうだったことに気が付き驚いた。化粧品の容器には海外に進出した日本メーカーの容器や海外で人気のメーカーの容器もあった。



椎根海岸の漂着ゴミ



中身入り中国クレンジング



漂着コスメ

#### 4.対馬 CAPPA 講話

一般社団法人対馬 CAPPA(Coast and Aquatic Preservation Program Association)は多くの機関と連携して美しい対馬の海洋環境の保全に取り組む一般社団法人だ。私たちは代表の松永通尚理事の話聞いた。松永さんは以前地元の方々と海岸のゴミの回収をして、海岸からゴミを減らした。しかし4日後にはまたゴミの量が元に戻っていることに気づいた。松永さんたちは清掃活動が無駄に思えて落胆したそうだが、数日前の台風で再び多くのゴミが漂着したことが原因だと分かった。そこで、ただ清掃をするだけではゴミを減らすことには繋がらないという考えに切り替え、本質的に海洋ゴミ問題の解決を図ろうと活動を行っている。対馬に流れてくる海洋ゴミは東アジア・東南アジアからの都市ゴミが多いようだ。今ではマイクロプラスチックと土が混ざりふかふかした新しい地層のようになっている場所があると聞き、とても印象的だった。昔から韓国と対馬は交流が深く、現在では韓国人観光客が年間30万人ほど対馬を訪れているそうだ。韓国のこどもたちと交流をして、一緒に海岸のごみ拾いを行うなど海洋問題について知ってもらい良いきっかけになっているという。



対馬 KAPPA 講話

#### 5.おわりに

今回のプログラムを通して、実際に区画を測り、フレコンバッグを使うなど専門的な調査方法を学ぶ貴重な機会となった。また、漂流ゴミ調査・講話から得たものも大きかった。学んだことを知人、後世に伝えこの経験を成果があったものにしたい。